

N o 4 : アユ、ヤシオマスに高評価

6月26日から29日にかけて、台湾最大級の国際総合食品見本市「FOOD TAIPEI 2024」が台北市で開催された。

台湾は中国、香港、米国に次ぐ第4位の農林水産物の輸出先であり、2023年の農林水産物輸出額は1,532億円、2024年1月から5月の輸出額も前年同期比でプラス9.6%と、日本にとって重要な市場である。

栃木県は、2022年から3年連続で同見本市内のジャパンパビリオンに出展し、おとし、昨年と同様に2社が参加した。

今回はそのうちの1社である県漁業協同組合連合会にフォーカスしたい。

同連合会が出品した商品はアユとヤシオマスである。アユは加熱処理した小さなものを冷凍し、解凍後にそのまま頭から食べることができる。ヤシオマスは切り身を冷凍したもので、解凍後に刺し身として食べることができる商品だ。

特に来場者の反応が良かったのはアユである。台湾では「香魚」と呼ばれ、スーパーで見かけたり飲食店で提供されたりするなど、台湾人にとっても身近な魚のようだ。今回出品した県産アユについては「台湾産よりも苦みがなく繊細な味」といった評価をいただくなどかなり好評であった。

ヤシオマスに関しても「一般的なサーモンよりも油が少なく味が濃い」という声をいただくなど、おおむね好意的に受け入れられていた。

来場者の中でも特に興味を持っていただけたのは、高級志向のレストランや居酒屋といった飲食店である。両商品とも品質は高い一方で比較的単価が高いため、高所得者向けのビジネスを行う事業者が取引先として有力になるだろう。

サプライヤーやロットの確保、物流の流れの整理など輸出に向けた課題は多い。しかし県もこれらの課題解決に各関係機関と連携して協力していくので、ぜひ台湾への輸出を実現してもらいたい。

県は海外への販路開拓や拡大を目指す県内企業などを支援するため、見本市出展だけでなくセミナー開催や補助事業などさまざまな施策を実施している。海外への販路開拓・拡大を検討される際には、ぜひ一度お気軽に県国際経済課にお問い合わせいただきたい。



【「FOOD TAIPEI 2024」の本県ブース
＝6月27日、台北】

(県香港事務所長 卯木啓之)